

高知憲法速報

No.232 2010. 8. 16

発行:高知憲法会議事務局 088-872-3406

編集人 事務局 徳弘嘉孝

8・15 戦争を語り継ぐつどい=講演と平和のうた

今年をつどいは8月15日午前10時から高知女子大学永国寺キャンパスで開かれ、130人が参加しました。

最初に高知センター合唱団が平和への願いを込めて平和の歌を披露しました。続いて「ふるさと自費出版大賞」ノンフィクション部門最優秀賞や高知県出版文化賞などを受賞した「二人の特攻隊員」の著者、大西正祐さんが「65年目の夏 高知の特攻を語る」と題して講演しました。講演要旨は次の通りです。

高知県と神風特別攻撃隊(特攻)は深い関係がある。1944年10月25日最初の特攻でも、1945年8月15日最後の特攻でも高知県出身の青年が犠牲になった。日章飛行場にいた「白菊」が特攻にかりだされ多くの犠牲を生んだ。高知県には人間魚雷、特攻ボートなど海の特攻基地が多数存在した。大西瀧治郎中將に特攻作戦を進言した岡村基春大佐は高知県出身者であった。

航空機や海の特攻で敵艦にぶつからずに帰ってきた人たちはむごい仕打ちを受けた。映画「月光の夏」でも描かれたが、一旦行ったものは帰ってならない、として繰り返し特攻の任務につけられたものもいる。真実を語ってもらうことが困難であったがそれでも取材を続ける中で多くのことを知らされた。1944年6月のマリアナ沖海戦で日本海軍は敗北し、サイパン島も陥落、日本の敗戦は明らかだった。この時に決断していれば、特攻による死もフィリピン・沖縄・広島・長崎・空襲・満州などの悲劇はなかったことになる。

「特攻は英霊だ」「特攻は犬死だ」はメダルの裏表であり、どちらも真実を伝えていない。レイテ海戦で護衛空母群に突入した最初の特攻の隊長・関大尉は、一人っ子でしかも結婚して間がなかった。出撃を命じられた時、しばし考えた後「判りました」と言って受諾したというが、出撃前に新聞記者に「天皇陛下のためとか日本帝国のために行くのではなく、最愛のKA(海軍用語で妻のこと)のために行く、彼女を守るために死ぬ、最愛のもののために死ぬ」と語っている。若者たちが死を前にしてどのように自分の死を位置

付けたのか、私達はくみ取り、考えなければならない。

この本の出版後、「特攻だけが戦死ではない、帰ってきたのは石ころと新聞紙だけだったという悲惨な死も多い、全体として取り上げてほしい」という意見も寄せられた。特攻作戦を進言した岡村基春大佐は昭和23年7月に木更津で自決している。出撃を見送った整備士の話も聞きたい。もう少し調べたい。そして次の世代に「特攻とはどういうものか」「相手の身になって物事を考えることの大切さ」を伝えていきたい。

会場から「終戦当時高知工業学校の学生で、十市の浜でタコつぼほりをさせられ、戦車の下で手りゅう弾を爆発させる訓練をしていた。教育で死ぬことが当たり前と思っていた」との体験発表もありました。

2010年憲法講座 ご案内

日時;9月11日(土)午前11時~午後4時20分
会場;東京 専修大学・神田校舎7号館731教室
第1講座;渡辺治一橋大学名誉教授

「民主党政権の新段階と憲法をめぐる情勢」
第2講座;森英樹龍谷大学教授・名古屋大学名誉教授
「日米同盟の現段階と憲法—安保改定50年の秋に」
特別報告;日本共産党国会議員

「参院選挙後の国会動向の特徴」
資料代1000円 事前申し込みが必要
主催;憲法改悪阻止各界連絡会議(中央憲法会議)

神奈川・埼玉・千葉・東京の憲法会議
憲法講座に先立ち、中央憲法会議拡大常任幹事会が9月10日に開催され、秋以降の運動について議論します。

須崎市で田母神俊雄講演会を計画 中止の要請を

須崎市立市民文化会館、須崎青年会議所、須崎商工会議所が主催して、元航空自衛隊幕僚長田母神俊雄氏を講師にした講演会が計画されています。田母神俊雄氏は2008年10月、「日本の侵略戦争は濡れ衣だ」という、政府見解と対立する論文を発表して航空幕僚長を事実上解任された人物であり、その後も各地で日本の核武装や改憲を主張している人物です。自治体に関わる行事に講師として招くことは問題です。後援団体に須崎市、須崎市教育委員会、マスコミ各社が名を連ねていることも許されません。中止の要請をしましょう。

次の街頭宣伝署名行動は8月19日 グリーンロード

8月19日(木)高知憲法会議 午後5:30~6:30

8月21日(土)こうち九条の会 午後1:30~2:30

9月4日(土)こうち九条の会 午後1:30~2:30